

第4章 高等部の取組

I 高等部について

<生徒の様子>

高等部では教育課程を3つに類型化している。自立活動を中心とした学習を行う重複学級のA課程、身辺自立から職業自立までの様々な実態の生徒が在籍するB課程、教科を中心に学習を行い社会自立や職業自立を目指すC課程で構成されている。作業班編成については、A・B課程の作業班を農業班Ⅰ（13名）、園芸班（13名）、陶芸班（11名）、縫工班（10名）、レザー班（12名）、木工班（10名）の6つの作業班、C課程の作業班を農業班Ⅱ（10名）、サービス班（10名）の2つの作業班としている。

<2年目の研究>

2年目は、作業学習における単元記録表の作成とアセスメントシートの見直しを行った。各教科等の内容や年間目標を示した単元記録表を作成し、整理することで、関連する各教科等の内容や作業学習を通して、生徒につけたい力や発達段階のつながりを意識することができた。また、アセスメントシートでは、生徒の実態把握から、手立てを考え、新学習指導要領の学力の3要素に基づいた3観点で評価につなげるようにした。指導の経過から、その手立てが適切であったか検討することで、より質の高い学びの実現を目指した。関連する各教科等の内容のつながりや生徒につけたい力を意識した作業学習を行うことで、より効果的な指導支援を見出すことができた。しかし、単元記録表では、どの程度各教科等の内容との関連づけを行うのか曖昧になってしまうこと、アセスメントシートでは、生徒の変容を書き込むことが難しい様式だったことが課題として挙げられた。

<3年目の研究>

3年目は、全校テーマである「知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実現するために必要な学習指導と評価の在り方」を受けて、単元記録表やアセスメントシートの見直しや活用をし、作業学習に取り組んだ。また、主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践を行い、作業学習における質の高い学びを目指した。単元記録表では、各教科等の内容との関連づけが曖昧にならないように、各生徒の実態や目標に応じた各教科等の内容を精選し、各教科等の内容に対する評価が明確になるようにした。その際には、学校目標や学部目標、作業学習の目標から本時の目標まで一貫性をもたせ、さらに中学部の作業学習とのつながりも意識できるようにした。アセスメントシートでは、生徒の変容を記録しやすいようにし、「作業メモ」を用意して作業班の教師全員が生徒の様子を記入できるようにした。各教科等の内容とのつながりや主体的・対話的で深い学びの視点を意識した作業学習を行ったり、日々の振り返りを積み重ねたりすることで、より効果的な指導支援や指導の経過、生徒の変容を具体的に見出すことができるのではと考えた。それらをもとに作業学習を実践したり改善したりすることで、質の高い学びとなる各教科等を合わせた指導の在り方を明らかにした。

II 研究の目的

- 作業学習で単元記録表を改善・活用して、関連する各教科等の内容を精選する。
- アセスメントシートを改善・活用し生徒の日々の変容を記録し、よりよい評価の在り方を探る。
- 主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、実践する。

III 研究の方法

- 単元記録表の作成
 - ・作業班ごとに、活動内容を整理し、単元記録表を作成する。
 - ・単元記録表の活動内容に関連する各教科等の内容を書き出しながら精選することで、それぞれのつながりを意識した指導支援を行う。
 - ・単元ごとに活動内容や手立ての見直しを行う。
 - ・単元記録表をもとに、授業研究や実践報告を行い、指導・助言を受け、修正・改善することで生徒の実態に応じたより良い指導支援の在り方を学ぶ。
- アセスメントシートの活用
 - ・アセスメントシートを用いて、適切な生徒の実態把握を行い、手立てを考える。
 - ・「作業メモ」を用いて作業班の教師全員が生徒の様子を記入し、手立てに対する生徒の経過を記録することで、手立てを見直したり、評価を行ったりする。
 - ・アセスメントシートをもとに、授業研究や実践報告を行い、指導・助言を受け、修正・改善することで生徒の実態に応じたより良い指導支援の在り方を学ぶ。
- 主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくり
 - ・講師による研修を通して、主体的・対話的で深い学びについて理解を深める。
 - ・主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを行い、実践し、その内容や方法が適切であったか協議する。講師からの指導・助言を受け、修正・改善することで生徒の実態に応じたより良い指導支援・授業づくりの在り方を学ぶ。

IV 実践例

1 単元記録表

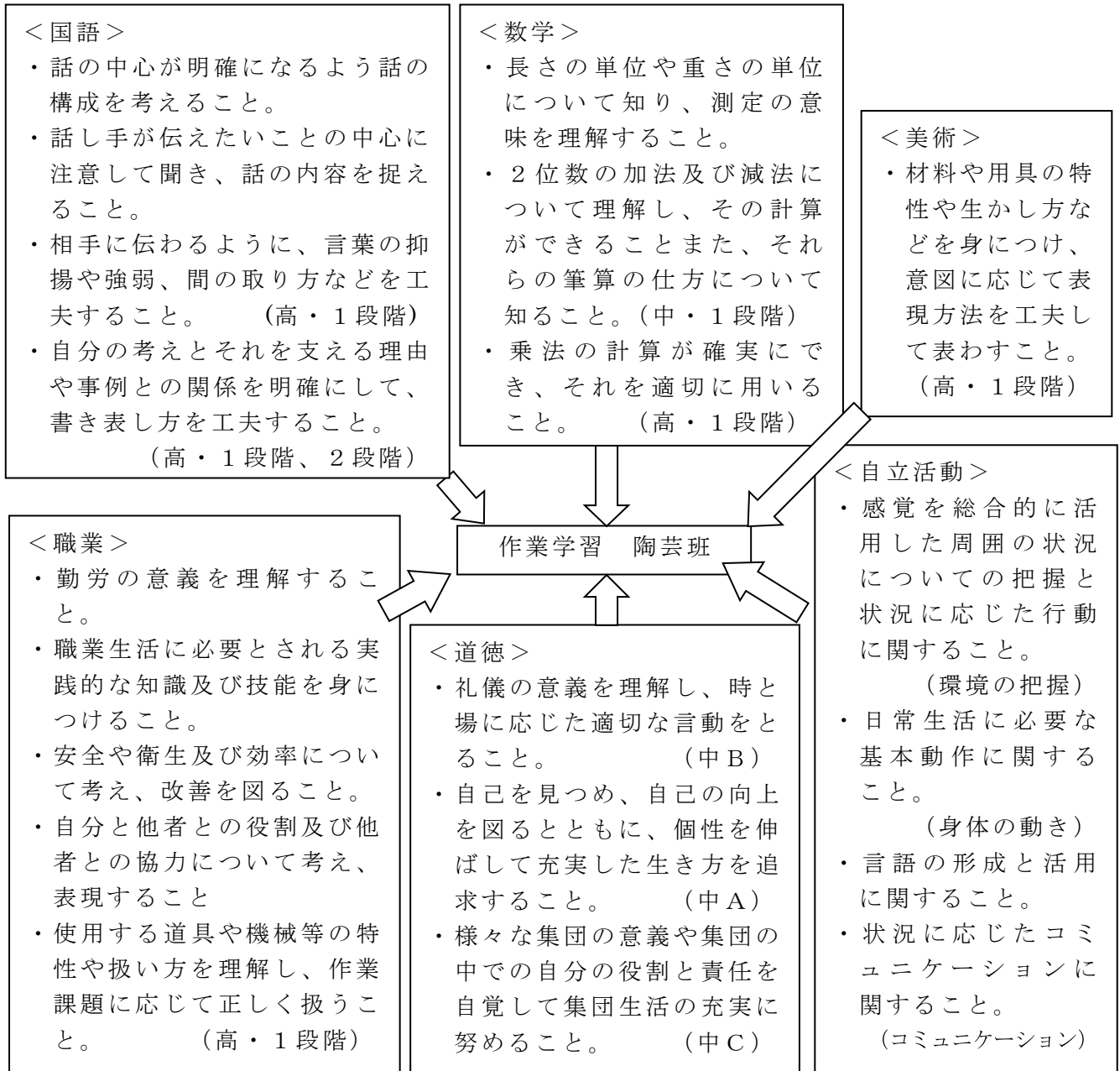
高等部 作業学習（陶芸班） 単元記録表

学校教育目標	子どもが豊かに育つ教育 世の中を優しくする学校～夢を・みんなと・笑顔で～
めざす児童生徒像	○健康で元気な子 ○夢をかなえようとする子 ○思いやりのある心豊かな子 ○すすんで学び、考え、行動する子
高等部学部目標	○運動に親しみ、体力の向上を図り、心身ともに健康で安全な生活を実践する力と態度を育てる。 ○自立と社会参加の意欲を養い、目標に向かい主体的に生きる力を育てる。 ○集団活動を通して互いに認め合い、豊かな人間関係を築く意欲や態度を育てる。 ○社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的能力を育てる。



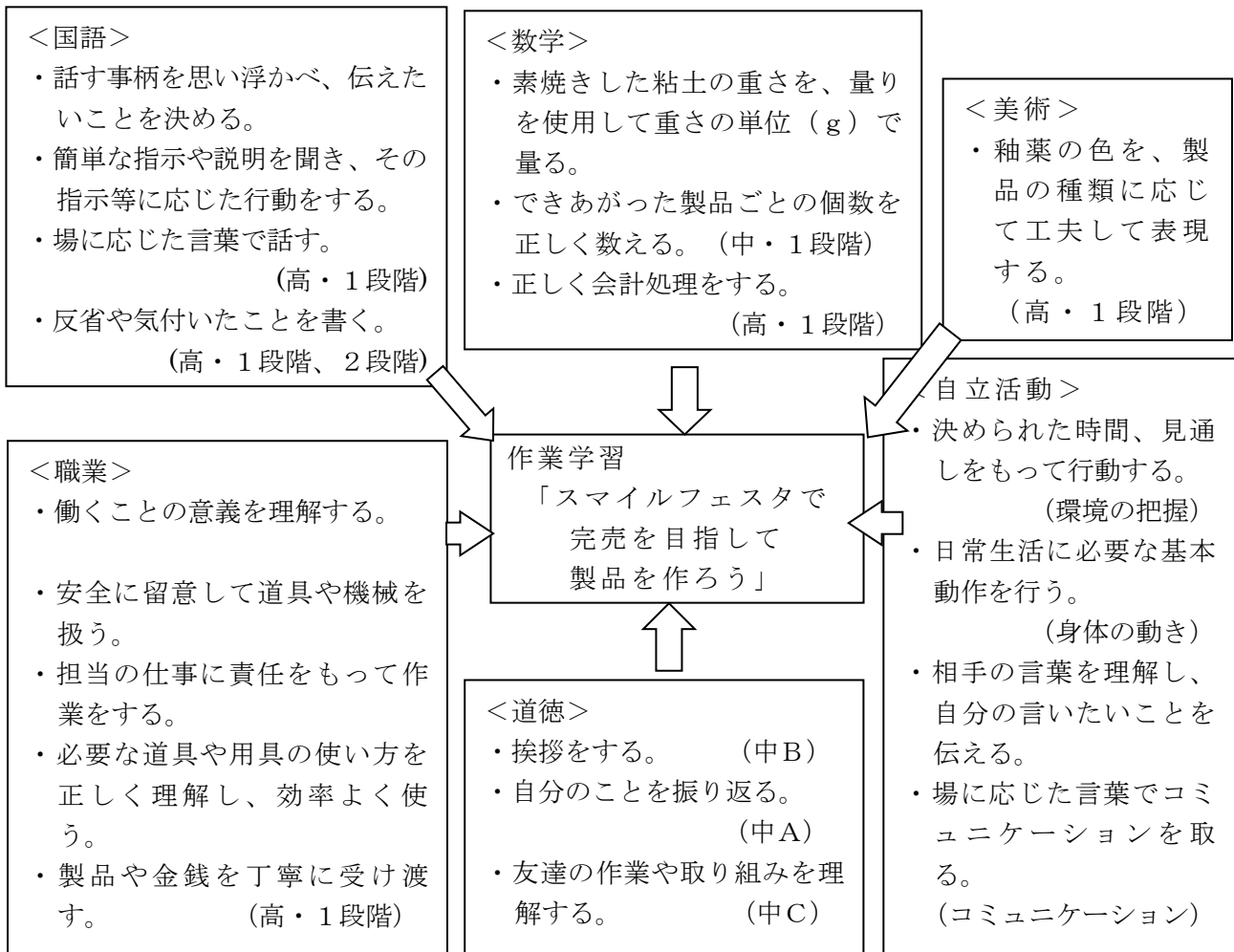
作業学習 年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作業内容を理解し、時間いっぱい正確に作業に取り組むことができる。(知識・技能) ・働く上での基本的な姿勢(報告、連絡、相談等)を身につけ、自分で考えたり、判断したりしながら実践することができる。(思考・判断・表現) ・社会的・職業的自立に向け、集団活動を通して互いを認め合いながら、すすんで作業に取り組む意欲や態度を身につけることができる。(主体的に学習に取り組む態度)
--------------	---

<各教科等の内容(学習指導要領の内容より抜粋)との関わり>



単元名	スマイルフェスタで完売を目指して製品を作ろう
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する材料や道具の特性、製品ができるまでの工程を知り、作業を正確かつ丁寧にを行うことができる。(知・技) ・状況に合わせた挨拶や返事、報告・連絡・相談ができる。(思・判・表) ・自分の仕事内容を理解して仕事に取り組み、活動を振り返ることで働く意欲や意識を高めることができる。(主)

<単元と各教科等の内容との関わり> ※生徒の活動より抜粋、学部・段階は学習指導要領の内容



<「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり>

主体的な学び（興味・関心、見通し）	対話的な学び（やりとり、気持ちを伝える）
<ul style="list-style-type: none"> ・担当する仕事に分かり、道具などの準備ができたり、作業に取り組めるように視覚的に提示する。 ・製品の完成までの工程表や係分担表を掲示しておく。 ・釉掛けでは、どのような色合いにするか参考にできるように、色見本を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないときや困ったときには質問、相談をできるように、相談の方法や言葉をまとめておく。 ・規定の工程が終わったら教師に報告できるように、報告のタイミングを決めておく。 ・教師の話や友達の発表を聞くときの姿勢に意識できるように言葉をかけたり、確認が必要な場面で伝えたり問いかけたりする。
深い学び（知識を相互に関連づける、自己評価及び振り返り）	
<ul style="list-style-type: none"> ・良い製品とはどのようなものが分かり、作業の手順表やポイントを自分で確認できるように、写真や実物で提示する。 ・製品に合う色合いを考えやすいように、製品の用途を考える機会を事前に設ける。 ・活動によって道具の使い方や目的が異なることに気が付くように、場面や状況を例に挙げて違いを問いかける。 ・目標を意識して取り組むことができるよう、個別の作業シートを作成する。 ・活動の成果や課題、気付いたことを振り返り、発表できるように、作業シートを活用したり、絵カードで選んだりすることができるようにする。 ・作業中に生徒が気付いたことや、教師が気付いたことを終わりの会で共有する。 	

<学習の内容>

※学習指導要領の目標・内容の一覧より該当する項目を記載

月	主な活動内容	関連する各教科等 ※
	<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を知る。 ・個人目標を考え、シートに記入する。 ・班の目標を決める。 <p>【製品作り】</p> <p>〈初めの会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店長の号令で挨拶をする。 ・教師が発表する係分担を聞く。 <p>〈準備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割に必要な道具を用意する。 ・決められた場所へ移動する。 <p>〈泥しょう作り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固くなった粘土を小さくちぎる。 ・泥しょうを、決められた時間いっぱい攪拌する。 ・水とソーダを決められた分量で量る。 	国語 1 ア（ア） 国語 1 Aア、ウ 国語 1 Bア、ウ 自活 2、6-1 （全て） 職業 1 Aア（ア）、（ウ） 職業 2 Aア（ア） 道徳 C-4 自活 4-4 国語 1 Aア 自活 5-5、5-4 美術 1 Aア（イ） 数学小 2 Bア（ア）㊦㊧ 数学小 3 Bア（ア）㊦㊧㊨ 職業 1 Aイ（ア）㊤

<ul style="list-style-type: none"> ・泥しょうの裏ごしをする。 〈泥しょう流し込み〉 ・ポットの定位置まで泥しょうを入れる。 ・流し込み 〈準備工程〉 ・粘土練り ・粘土を引き伸ばし機で伸ばす。 ・粘土をめん棒で引き伸ばす。 〈製品作り ヘアゴム・箸置き・マグネット〉 ・型抜き ・型押し ・模様付け ・やすりがけ 〈製品作り 茶碗・皿〉 ・流し込み ・取り出し ・やすりがけ 〈袋詰め〉 ・袋に詰める製品をセットにする。 ・袋に入れる。 ・封をする。 ・値段シールを貼る。 〈レシート作り〉 ・ハンコを付箋に押す。 〈あとかたづけ〉 ・使った道具を濡れ布巾で拭く。 ・使った台を濡れ布巾で拭く。 ・早く終わった生徒は他の生徒の片付けも手伝う。 ・早く終わった生徒は床をほうきで掃く。ちりとりでゴミを取る。 〈作業シートの記入〉 ・所定の位置から作業シートを取り出す。 ・作業シートに自分の振り返りを記入する。 ・担当の教師の評価を聞いたり、一緒に振り返ったりする。 ・所定の位置に作業シートを提出する。 〈終わりの会〉 ・店長の号令で挨拶をする。 ・今日の感想を発表する。 	<p>職業 2 A イ (ア) ⊕</p> <p>美術 1 A ア (イ)、2 A ア (イ) 職業 1 A ア (ア)、(ウ) 職業 2 A イ (ア) ⊕</p> <p>美術 1 A ア (ア) 美術 2 A ア (イ) 職業 1 A ア (ア)、(ウ) 職業 2 A イ (ア) ⊕ 自活 5 - 5</p> <p>美術 1 A ア (ア)、(イ) 美術 2 A ア (ア)、(イ) 職業 1 A ア (イ)、イ (ア) ㊦ ⊕ 職業 2 A ア (イ)、イ (ア) ⊕ 自活 5 - 5</p> <p>美術 1 A ア (イ)、2 A ア (イ) 職業 1 A ア (イ)、イ (ア) ⊕ 職業 2 A ア (イ)、イ (ア) ⊕ 自活 5 - 5</p> <p>国語 1 A (イ)、1 A (ア) 数学小 2 B ア (ア) ㊦ ㊧</p> <p>職業 1 A ア (イ)、 イ (ア) ⊕、イ (イ) ㊦ 職業 2 A ア (イ)、イ (ア) ⊕</p> <p>職業 1 A イ (ア) ⊕ 職業 2 A イ (ア) ⊕ 自活 4 - 2、5 - 5</p> <p>道徳 B (6)、C (1 2) 自活 4 - 4</p>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間の発表を聞く。 ・ 教師の話聞く。 ・ 店長の号令で挨拶をする。 <p>【接客】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会計 ・ 品数確認（シールはがし） ・ 梱包 ・ 袋詰め ・ 受け渡し 	<p>国語 B ア、道徳 A(3) 自活 4 - 4</p> <p>国語 1 A ア、ウ 自活 4 - 4</p> <p>数学小 1 C ア (イ) (ア) (イ)</p> <p>数学小 2 B ア (ア) (ア) (イ)</p> <p>数学小 3 B ア (ア) (ア) (イ) (ウ)</p> <p>数学小 3 B イ (ア) (ア)</p> <p>数学小 3 C イ (ア) (ア) (イ)</p> <p>数学小 3 C イ (イ) (ア) (イ)</p> <p>国語 1 A ア、2 A ア</p> <p>社会 1 ア (ア) (イ)</p> <p>職業 1 A ア (イ)、イ (ア) (ア)</p> <p>職業 1 A (イ) (ア)</p> <p>職業 2 A ア (ア)、イ (ア) (ア)</p> <p>自活 3 - 1、5 - 5、6 - 1、 6 - 4、6 - 5</p> <p>道徳 B - 2</p>
---	--

<評価>

○単元の振り返り

<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業工程を表にしたことで、流れは理解していたが、今回の単元でようやく自分たちが作ってきた製品の完成を見ることができた。陶芸の制作工程は長期にわたるため、見通しなどがもちにくいことが課題である。また、作業をするにあたり、回数や時間、形などに関する基準の設定が難しいことも課題としてあげられるため、改善が必要である。 ・ それぞれが担当した作業工程で使用する道具は丁寧に扱うことができ、継続して取り組むことで道具の使用法や力の調整などの技術の上達につながり、製品の質も上がった。(知・技) ・ 報告・連絡・相談をするタイミングや言葉を掲示したり、教師が事前に確認したりすることで、できるようになってきている。生徒の実態によっては、相談ができるようになった次段階として、生徒自身で考えてから相談や質問ができるような手立てを講じていくことが、主体的な姿や深い学びにつながる。(思・判・表) ・ 担当する仕事をある程度固定することで、自分の作業工程に関する理解が深まった。また、振り返りで自己評価と他者評価を比較する時間や、作業シートで視覚的に確認することで、生徒の中には課題意識をもって取り組むことができた生徒もいた。(主)

○単元における関連する各教科等の内容の経過・変容

	関連する各教科等の内容	経過・変容
職業	・担当の仕事に責任をもって作業をする。	製品の完成まで期間が長く、完成した製品のイメージすることが難しく、見通しがもてないため、始めは作業の途中で離席したりする生徒もいた。しかし、継続して作業に取り組んだり、行程表で今どの段階の作業なのかを確認したりすることで、作業時間中は担当する作業を時間いっぱい取り組むことができるようになってきている。
国語	・反省や気付いたことを書くことができる。	今単元から作業シートを取り入れた。始めは自由記述の欄が白紙のことがあったが、教師とのやりとりや生徒同士の気づきを、振り返りのときに教師が再度話題にあげることで、書き入れられる生徒が増えてきた。

○次単元に向けて

<p><身だしなみや作業中に必要なコミュニケーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告や連絡は少しずつできるようになってきたが、分からないときに声をかけられるまで待っている生徒や、自分で考える力はあるが、すぐに質問をする生徒など、実態によって課題がある。生徒に必要な支援や手立てを考えて、引き続き実践していきたい。【対】 <p><できる環境づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じて、目的や活動の準備をしていく。生徒が自分の担当作業を理解したり、製品の出来を向上させたりすることに自主的に取り組むことができる手立てや環境づくりができると良い。【主】 <p><対話的な学び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前向きな気持ちで作業学習に取り組めるように、生徒自身の長所や課題に気がついたり考えたりする一つの手立てとして、引き続き、振り返りシートを活用する。生徒同士や、教師とのやりとりの中でも学びが生まれるような、意図的な言葉かけなどを取り入れられるようにしていきたい。【対】 【深】

2 学習指導案

高等部 作業学習〈陶芸班〉 学習指導案

1 単元名 「スマイルフェスタで完売を目指して製品を作ろう」

2 単元について

陶芸班は1年生5名、2年生3名、3年生3名の計11名で構成されている。コミュニケーション面では、発語がなく、身振りで伝える生徒から、言葉で伝えることができる生徒まで所属している。作業への様子としては、言葉での説明や教師が手本を示すことで作業内容を理解して作業に取り組める生徒、教師が言葉をかけたり、同じ作業を一緒に行ったりする事で作業に取り組める生徒など、実態が様々である。卒業後は、企業への就労を目指している生徒が4名、その他は就労移行支援や就労継続支援B型事業所、生活介護等のサービスの利用を希望している。

高等部の作業学習では、以下のことを目標に取り組んでいる。

卒業後の生活を見据え、自分の力を精一杯発揮し、主体的に働く意欲や態度を身につける。

本作業班は、たたら作り、成形、やすりがけ、ろう付け、釉薬掛けなどの作業を分担し、全員で協力して製品を作り上げている。昨年度までの研究を受け、作業を分担する際には、いろいろな工程を実際に体験した様子や教師の見立てをもとにアセスメントシートを作成し、実態把握を行った上で、作業内容への関心・意欲や作業技能の点からそれぞれの作業担当を考えた。また、単元記録表を作成し、作業学習の中にどのような各教科等の内容が含まれているかを確認した。さらに、今年度は生徒の様子や教師の手立てを毎時間記録し、アセスメントシートにまとめることで、生徒の成長の様子や今後の課題などを共通理解している。

前単元の様子として、使用する道具の準備や作業内容、手順が覚えられずに戸惑ったり、失敗したとき等にどうしたら良いのか分からず、教師に声をかけられるまで待たたりする様子が見られたが、作業に繰り返し取り組み、適宜生徒に伝えていくことで、すすんで取り組むことができるようになってきている。また、製品作りでは、納得がいくまで何度も作り直す姿や、丁寧に作業をする姿が見られるようになってきたため、本単元では振り返りのできるワークシート（以下、作業シート）を作り、生徒が振り返る時間を設けることにした。

本単元は、毎年本校で行われる文化祭「スマイルフェスタ」での販売会に向けた単元である。生徒が意見を出し合い、「良い製品を作って販売会でたくさん売ろう」という目標を決めた。

本単元では以下の3点に重点を置いて取り組む。

- ① 決められた手順に沿って丁寧に作業をする。
- ② 必要な場面や困ったときに報告や相談をする。
- ③ 作業について振り返ったり、「良い製品」について考えたりして、次回の作業につなげる。

重点の①を達成できるよう、環境づくりと教具の工夫を行う。環境面では、作業場の道具や座席配置について見直していく。生徒の様子や動線、仕事分担に応じて再構成し、集中して仕事ができる環境づくりを行う。教具の工夫については、自分たちで道具の準備や片付けができるように物の場所を表示したり、安全に仕事を進めることができるようにろう付けの工程では型枠を使用したりする。②では、新しい作業内容も加わるため、報告・相談の大切さを伝え、教師に言葉をかけるタイミングや相談の仕方について確認する。③では、過去の製品をみんなで見て評価し、善し悪しを考え

たり、自分たちが客になったときにどんな製品を買いたい、どんな製品だったら使いやすいかなどを考えたりする。製品を作るためのスキル面については教師が伝えていくことで知識・技術の向上を図っていく。そして、作業の終わりに、個別の作業シートで振り返りを行うことで自己評価を行う時間を設ける。そこに教師の評価も加えることで、目標や自信、課題意識を高めていく。

この単元が今年度初めて販売する機会となり、今まで作ってきたものが他者から評価されることになる。日々の作業学習の中で、作業に対する姿勢や製品の出来について考え、前向きな気持ちで取り組むことを通して、スマイルフェスタ当日は、製品の完売を目指して、自信をもって宣伝したり、販売したりする姿に期待したい。そしてお客さんからの他者評価を知ることで、更に自信がついたり、新たな目標をもったり、課題に気がついたりして、より良い製品を作りたいという意欲につなげたい。

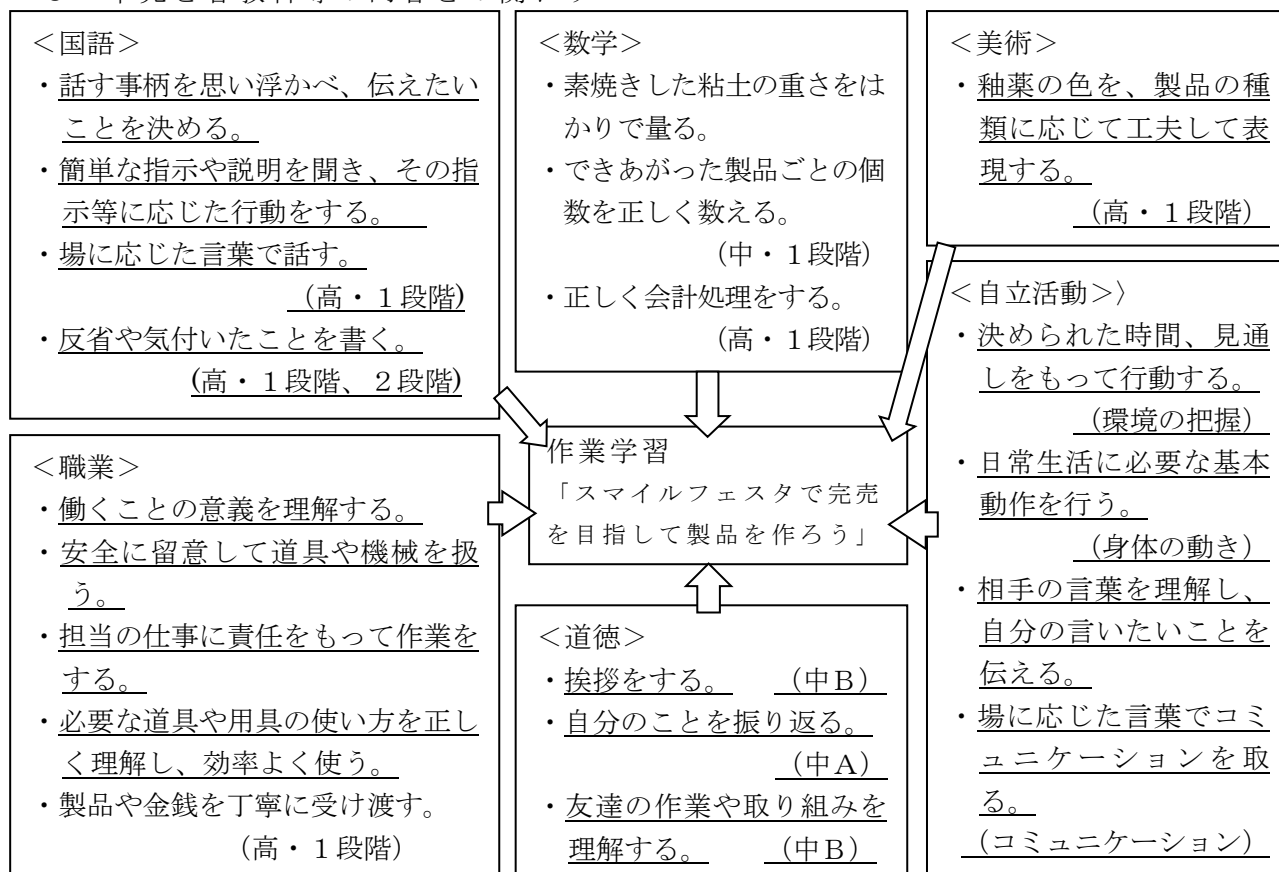
3 単元の目標

- ・使用する材料や道具の特性や製品ができるまでの工程を知り、作業を正確かつ丁寧に行うことができる。(知・技)
- ・状況に合わせた挨拶や返事、報告・連絡・相談ができる。(思・判・表)
- ・自分の仕事内容を理解して仕事に取り組み、活動を振り返ることで働く意欲や意識を高めることができる。(主)

4 題材(単元)の計画 (26, 27 / 57時間)

月 日	時数	活 動 内 容		
6 / 21 (金)	3	○スマイルフェスタ単元導入 ○店長、目標決め		
6 / 24 (月)	2	○製品作り <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <input type="checkbox"/>粘土作り ・砕き ・引き伸ばし ・泥しょう攪拌 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <input type="checkbox"/>成形 ・玉ころ作り ・皿の成形 ・型抜き ・模様付け ・やすりがけ </td> </tr> </table> </div>	<input type="checkbox"/> 粘土作り ・砕き ・引き伸ばし ・泥しょう攪拌	<input type="checkbox"/> 成形 ・玉ころ作り ・皿の成形 ・型抜き ・模様付け ・やすりがけ
<input type="checkbox"/> 粘土作り ・砕き ・引き伸ばし ・泥しょう攪拌	<input type="checkbox"/> 成形 ・玉ころ作り ・皿の成形 ・型抜き ・模様付け ・やすりがけ			
6 / 25 (火)	2			
6 / 26 (水)	2			
6 / 28 (金)	2			
7 / 1 (月)	2			
7 / 2 (火)	2			
9 / 13 (金)	2			
9 / 17 (火)	2			
9 / 20 (金)	2	○窯入れ(素焼き)		
9 / 24 (火)	2	○窯出し ○検品		
9 / 25 (水)	2	○製品作り <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <input type="checkbox"/>ろう付け <input type="checkbox"/>釉掛け <input type="checkbox"/>成形 <input type="checkbox"/>粘土作り(砕き) </div>		
9 / 26 (木) 【本時】	2			
9 / 27 (金)	2	○個数確認 ○窯入れ(本焼き)		
9 / 30 (月)	2	○窯出し ○品評会		
10 / 1 (火)	2	○販売準備 ○接客練習		
10 / 2 (水)	2			
10 / 3 (木)	5			
10 / 4 (金)	7	○スマイルフェスタ(校内展開)		
10 / 5 (土)	7	○スマイルフェスタ(保護者公開)		
10 / 8 (火)	3	○片付け ○振り返り		

5 単元と各教科等の内容との関わり



6 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり

<p>主体的な学び（興味・関心、見通し）</p>	<p>対話的な学び（やりとり、気持ちを伝える）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当する仕事分かり、道具等の準備して作業に取り組めるように写真カード等を視覚的に提示する。 ・ 製品の完成までの工程表や係分担表を掲示しておく。 ・ 釉掛けでは、色合いの参考にできるように、色見本を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困ったときには質問、相談をできるよう、相談の方法や言葉をまとめておく。 ・ 工程が終わったら教師に報告できるよう、事前に報告のタイミングを決めておく。 ・ 教師の話や友達の発表を聞くときの姿勢を意識できるように言葉をかけたり、確認が必要な場面で伝えたり問いかけたりする。
<p>深い学び（知識を相互に関連づける、自己評価及び振り返り）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 良い製品とはどのようなものが分かり、作業の手順表やポイントを自分で確認できるように、写真や実物で提示する。 ・ 製品に合う色合いを考えやすいように、製品の用途を考える機会を事前に設ける。 ・ 活動によって道具の使い方や目的が異なることに気が付くように、場面や状況を例に挙げて違いを問いかける。 ・ 目標を意識して取り組むことができるよう、個別の作業シートを作成する。 ・ 活動の成果や課題、気付いたことを振り返り発表できるように、作業シートを活用したり、絵カードで選んだりすることができるようにする。 ・ 作業中に生徒が気付いたことや、教師が気付いたことを終わりの会で共有する。 ・ 相手の良さに気が付いたり、自分の作業について振り返ることができるように、お互いの作業が見える席の配置にする。 	

授業づくりの様子



<見通しをもって主体的に作業を進めるための教材（主体的な学び）>

<お互いが見合える席の配置（深い学びのための支援）>

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・材料の特性や製品の種類に合わせて、道具を正しく使用して製品を作ったり、正しい工程で製品を作ったりすることができる。（知・技）
- ・一工程終わったときの報告や、困ったときなどに相談をすることができる。（思・判・表）
- ・自分の仕事を振り返り、作業シートに記入したり、発表したりすることができる。（主）

(2) 本時の展開

時配	学習内容と活動	指導・支援上の手立て	教材・教具
10:20	○始めの会をする。 ・始めの挨拶をする。 ・教師の話聞く。 ・仕事分担を知る。	※始まる時間までに身支度が整うよう、生徒の様子に応じて教師が言葉をかける。 ・教師や班長に注目できるよう、姿勢が整っているか確認し、様子に応じて言葉をかける。【対】 ・仕事の分担表を掲示しておき、視覚的にも確認できるようにする。【主】 ・必要な場面の報告や、困ったときの相談ができるように、確認をしたり、声をかけるタイミングが分かるように表示をしたりする。【対】	分担表 報告・連絡の仕方
10:23	○準備をする。	・必要な道具が分かるように、作業テーブルに分担ごとの写真カードを用意しておく。【主】 ・J,K：使用する道具はひとまとめにしておき本人の顔写真を貼っておく。【主】	写真カード

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班長は作業開始の言葉をかける。 		
10:27	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製品作りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに工程や注意点を聞いたり考えたりする。 ・ ろう付け <ol style="list-style-type: none"> ① ろうを筆に付け、製品の裏面に塗る ② 板に並べる。 ③ 報告する。(B, C, D, E, F) ・ 釉掛け <ol style="list-style-type: none"> ① 製品を選ぶ。 ② 釉薬の色を選ぶ。 ③ 釉薬を付ける。 ④ 板に並べる。 ⑤ 報告する。(A, F, G, H, I) ・ 粘土砕き (J, K) <ol style="list-style-type: none"> ① 粘土を木槌で砕く。 ・ 成形 (J) <ol style="list-style-type: none"> ① 粘土を一つずつ補助具の中に入れる。 ② 補助具を振る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの際、必要に応じて使用できるように、タブレットで作業の様子を写真で撮影しておく。 深 ・ ホットプレートやろうでのやけどに気をつけるよう、注意喚起をする。また、小物類にろうを付ける生徒には型枠を使うように話す。 主 (T1) ・ ろうがはみ出してしまう様子が見られたら、決まった場所にしか付かないようにマスキングテープを貼る。(T1) ・ 釉薬がきれいにつくよう、①二度付けしない②釉薬についたらすぐに出す③釉薬が乾いてから二回目の釉薬をつけることをあらかじめ確認する。 主 対 (T2, T3) ・ 確認事項は工程表の中に表示し、生徒の様子に応じて言葉をかけたり、表示を指し示したりしながらやり方を再確認する。 主 対 ・ 仕上がりの配色のイメージがもてるように、色カードを活用して生徒に問いかける。 主 対 (T2, T3) ・ J: 粘土砕きでは、見通しをもち、なるべく一人で取り組むことができるよう、タイマーを5分にセットし、作業と休憩を繰り返して取り組む。 ・ 粘土砕きでは、粘土が飛び散らないよう浅いバットにマットを敷いた中で粘土を砕くようにする。 ・ 粘土はあらかじめ決まった大きさに切っておく。 ・ 効率よく丸められるよう、補助具を使用して一度丸めてから手で丸める。 <p>※生徒の様子に応じて、適宜水分の摂取</p>	<ul style="list-style-type: none"> タブレット ろう付けの工程表 型枠 マスキングテープ 釉掛けの工程表 出来高表 色カード タイマー バット マット ふりふり

	<p>③ 取り出して手で形を整える。</p>	<p>やトイレに行くことを促す。(T1~T4)</p>	
<p>11:35</p>	<p>○片付けをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班長が作業終了の言葉をかける。 ① 道具を洗う、拭く。 ② 道具を元の場所に戻す。 ③ 机上を拭く。 ・ J、Kは②③のみ行う。 <p>○振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業シートを書く。 <div data-bbox="284 831 619 1173" data-label="Image"> </div> <p>タブレットによる振り返り</p> <p>○終わりの会をする。 (班長が進行する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の振り返りを発表する。 ・ 教師の話聞く。 ・ 残りの日数を確認する。 (店長が日数を読み上げ、副店長が日めくりカレンダーを一枚はがす。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物の場所が分かるように、視覚的に提示しておき、一人で片付けることが難しい生徒は教師と一緒にやる。主(T1~T4) ・ 記入できたら担当の教師と一緒に振り返りを行う。生徒の自己評価と教師からの評価を見比べられるように作業シートに教師からの評価を書き入れる。深(T1~4) ・ 記入が難しい生徒には仕事の絵カードを提示し、選択できるようにする。深 ・ 作業の様子を思い出せるように、生徒の様子に応じて、タブレットで撮った写真を確認しながら振り返りを行う。深 ・ 店長が自信をもって進行することができるように、進行表を使用する。主 ・ 発表に戸惑っている生徒には、作業シートの振り返りを見返すように促したり、教師がインタビュー形式で質問して、本人が伝えやすい雰囲気を作ったりする。対(T2~T4) ・ 次時への意欲や期待を高め、課題を明確にできるよう、本時の作業の中で良かった場面や次への課題を伝える。タブレットから良い場面を拾い出して共有する。深 	<p>作業シート</p> <p>絵カード</p> <p>タブレット</p> <p>進行表</p> <p>日めくり カレンダー</p>

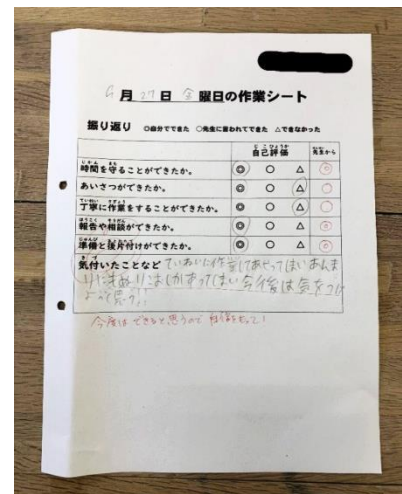
	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や班長に注目できるように、姿勢や視線など、聞く姿勢が整っているか確認し、様子に応じて言葉をかける。 対 	
--	---	--	--

(3) 評価

- ・材料の特性や製品の種類に合わせて、道具を正しく使用して製品を作ったり、正しい工程で製品を作ったりすることができたか。(知・技)
- ・一工程終わったときの報告や、困ったときなどに相談をすることができたか。(思・判・表)
- ・自分の仕事を振り返り、作業シートに記入したり、発表したりすることができたか。(主)



<振り返りの様子>



<振り返りシート一例>

V 研究の成果と課題

高等部では作業学習を通して「質の高い学び」を目指してきた。実現のために、①P D C Aでの授業改善、②生徒の適切な実態把握と観点別評価、③それらを生かした授業づくり、に取り組んだ。

①に関しては、当初は授業の評価は行うことができたが、次の単元へのP D C Aを回すには至らなかった。また、どのような力が付いた授業だったかを評価することが難しかった。そこで、単元記録表を用いて、観点別の単元目標を設定して評価するようにした。また、作業学習に関連している可能性のある各教科等の内容を挙げた。その結果、P D C Aサイクルが機能し、授業改善につなげることができた。また、関連する各教科等の内容を意識しながら授業づくりに取り組むことができた。一方で関連する各教科等の内容を多く挙げたことで、どの程度授業づくりに関連づけていけばいいのかが曖昧になってしまった。そこで、3年目には各教科等の内容の精選を行った。2年目に引き続きP D C Aサイクルで授業改善ができたことに加え、より各教科等の内容を意識した授業づくりができるようになった。②に関しては、高等部教師が生徒に付きたい力を協議し、3観点で構成したアセスメントシートを開発した。当初は実態把握のみであったが、2年目は実態把握から評価までを行える様式に、3年目は実態把握から評価までを行うと共に、生徒の変容が書き込める様式にした。③に関しては、それらを授業に生かすために、主体的・対話的で深い学びについての視点も取り入れ、授業実践研究を行った。

授業改善を行うに当たって、複数の授業者が授業の目標や関連する各教科等の内容を共通理解(Plan)して一貫した授業を行う(Do)ことができるようになった。次単元への課題点も共有しやすく(Check)、より円滑に改善を図る(Action)ことができた。また、生徒の評価では、一貫した観点で生徒の当初の実態と変容を細かく把握していくことで教師間での共通理解が深まり、適正な評価ができたことに加えて、指導法や補助具が適切化されていった。授業実践研究では、生徒個々の目標設定と振り返りの活動が主体的・対話的で深い学びに繋がることが分かった。これらを実践した具体例として、生徒へのアセスメントから振り返りの場面を設定し、個人の変容の記録と単元の記録をもとに授業改善を行っていった。その結果、振り返りの場面で、生徒から検品の仕方や別の工程の際に気をつけるべきことが自発的に出るようになった。これは本校が目指す「すすんで学び、考え、行動する」姿、つまり「質の高い学び」の一例である。

生徒のアセスメントを行い、変容を記録・評価することで、それぞれの生徒に対する細やかな支援に繋げる。関連する各教科等の内容を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業を行い、改善することが「質の高い学び」につながるということが分かった。

1 単元記録表

○ 2年目の課題

- ・単元記録表では、どの程度各教科等との関連づけを行うのかが曖昧だった。
- ・単元記録表の様式が決定するのが遅く、学部での取組が遅くなった。



○ 3年目の成果と課題

<成果>

- ・単元記録表の様式を改善することで、各作業班の単元目標について各教科等の関わりがどの程度あるのかが明確になった。
- ・作業班で単元目標について話し合う中で、指導の根拠を各教科等の目標や内容の中から示すことができ、授業づくりで教師間が共通理解のもと、一貫した指導を行うことができた。
- ・単元終了後、関連する各教科等の内容の経過や変容をまとめ、授業の評価を行うことで、次の単元で改善を図る点が明らかになったり、授業改善に繋がったりした。

<課題>

- ・高等部でのアンケートから、単元記録表を作成する負担が大きいという意見が多くあった。



○ 課題改善に向けて

- ・単元について関連する各教科等の内容が明確になり、授業づくりの根拠を学習指導要領から示すことができるため、来年度以降も活用していけるよう、負担を軽減するような様式を作成する。

2 アセスメントシート

○ 2年目の課題

- ・アセスメントシートを生徒の変容を記録しやすい様式に改善する。



○ 3年目の成果と課題

<成果>

- ・アセスメントシートを生徒の変容を記録しやすい様式に改善した。
- ・作業メモを用意し、教師一人一人が記録をつけることで、生徒の変容を記入しやすくなった。

<課題>

- ・アセスメントシートで生徒の実態把握や変容が分かりやすくなったが、評価しづらい様式となってしまった。
- ・生徒によっては、実態が見えにくいことがあった。



○ 課題改善に向けて

- ・個別の指導計画と連携した評価しやすい様式になるよう協議し、改善する。
- ・個人内の重点目標を設定し、その到達度に応じた実態把握と評価をすることでより個に応じた実態把握と評価を行えるようにする。

3 主体的・対話的で深い学びの授業づくり

○ 3年目の成果と課題

< 成果 >

- ・ 指導案に記載したことで、授業者が意識した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりについて教師間の共通理解に繋がった。
- ・ 授業の中で生徒同士が活動を見合える環境をつくったことが、対話的な学びに繋がった。
- ・ 振り返りの中で、「どうしたら良い製品が多くできるか」と、生徒が考えられる場面がくれた。
- ・ 教師が意図しなかった場面でも、深い学びが生まれていることがあった。

< 課題 >

- ・ 主体的・対話的で深い学びについてまだ深く理解できているとは言えないため、今後も研修が必要となる。
- ・ 主体的な活動の動機付けになるような作業内容や場の設定を用意しきれなかった。



課題改善に向けて

- ・ 主体的・対話的で深い学びについての研修会や、指導案への記載を継続する。
- ・ 授業づくりの際に、主体的な活動の動機付けになるような作業内容や場の設定を意図的に用意する。